

社会福祉法人 無双

無双 Story. 第一章

見た目は華やかに。
中身は誰よりも 泥臭く。

～ なぜ無双は生まれ、どこへ向かうのか ～

無双は、 何のために 生まれたのか。

— ここから、その物語をお話しします。

第1章 原点 ― なぜ無双をつかったのか

“

私には、ずっと悔しかったことがありました。

福祉は、人を支える仕事。

それなのに、頑張る人が
正しく評価されない。

「だったら、 自分で創ろう。」

THREE・PILLARS

01

正しい評価
がある会社。

02

利用者が
誇れる会社。

03

職員が
誇れる会社。

社会福祉法人は、すぐには作れませんでした。
だから、**合同会社**から始めました。

2009 平成21年



福祉業界へ入職。

2022・令和3年



合同会社として、
まず始める。

2025・令和7年



社会福祉法人
無双になる。

13 年間 の積み重ねの先に。

CHAPTER・02

第二章

挑戦 ― 本社ができるまで

ここから、写真を中心に、その裏側を。

すべては、
ここから
始まりました。

何もない。
理想だけがありました。

この本社は、
お金が潤沢にあって建てたものではありません。

資金は、ギリギリ。

それでも、前に進んだ理由は、たった二つ。

REASON 01

利用者さんの
ために。

REASON 02

職員が誇れる
場所をつくる。

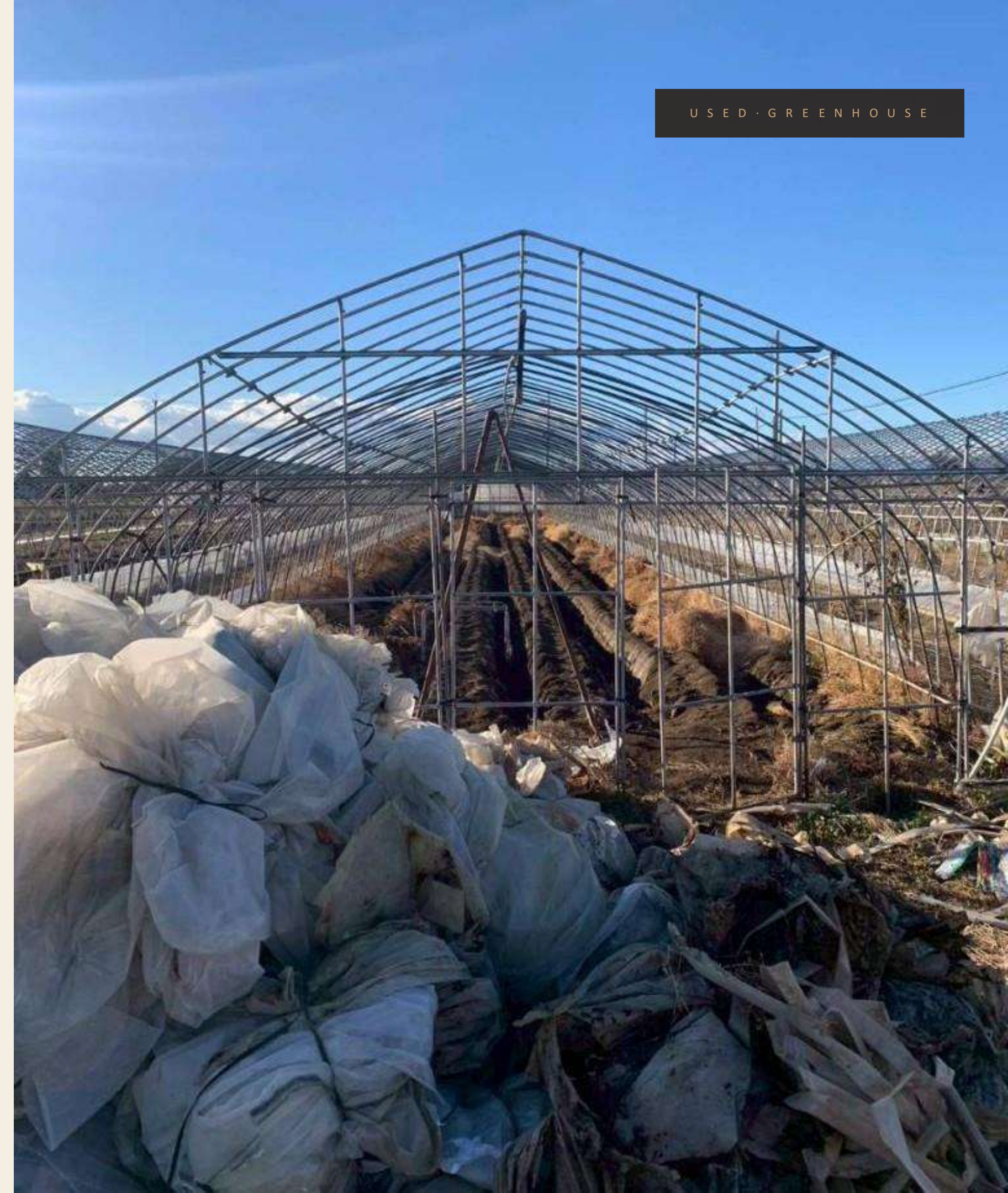
ハウスも、 同じでした。

新品は、買えなかった。

だから、**中古のハウス** を買いました。

でも、最初の仕事は。

産業廃棄物の、片付けでした。



ないなら、自分たちでつくる。



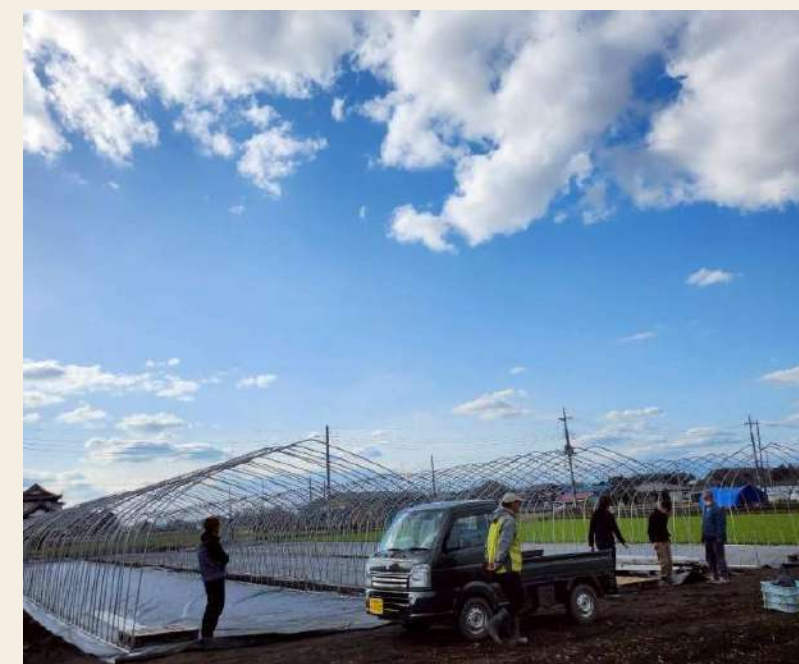
使えるものは、
活かす。



足りないものは、
作る。



資金がないなら、
知恵を出す。



あとは、
汗をかく。

— 少しずつ、



理想が、形になっていきました。

私たちは、 見た目にこだわります。



利用者さんにも。



地域の方にも。



職員にも。

「ここで、働きたい」と思ってもらえる場所であるために。

でも、

その裏側は、
誰よりも **泥臭い**。

汗を、**流す**。

工夫を、**する**。

挑戦を、**続ける**。

根底にあるもの

常にあるのは、悔しさ です。

「福祉だから、仕方ない。」

「予算がないから、できない。」

そんな言葉で、終わらせたくない。

だから挑戦する。だから、自分たちの手でつくる。

第三章

未来 — いま、無双は何をしているか

今はまだ、ゴールではありません。
これは、挑戦が始まる場所です。

はじめに ― わたしたちのこと

職員が誇れる、 多角経営の福祉法人。

茨城県 桜川市 と 栃木県 真岡市で、
グループホーム・生活介護・短期入所・カフェ・いちご農園を運営しています。
利用者と職員が「共に誇りを持てる」場所を、いま少しずつ育てています。

FACTS

拠点 5 拠点 / スタッフ 26 名

事業 福祉・農業・飲食・委託

法人化 令和7年9月1日

すべての原点 ― 福祉業界への絶望



REPRESENTATIVE・INONO TATSUYA

“

やる気のない上司、
競争意識のない職場、
年功序列で若手の芽を摘む古い体質。

大学卒業後、少子高齢化に目を向けて福祉業界へ入職。
しかしそこにあったのは、教養もない自分と、やりがいを持ってない環境。
―「悔しさ」が、すべての原点になりました。

― 理事超 猪野 達也 「誇れる会社づくりを、仲間とともに」より

それでも、独立の夢は消えなかった

悔しさの中でも、13 年、 その意志を持ち続けました。

2009 年

現場 13 年

令和 3 年・2022

大学卒業 → 福祉業界へ

少子高齢化と地元の需要を見て、「これで独立しよう」と入職。

絶望を、設計に変える

「もっと自分らしく仕事に誇りを持てる場所」を、頭の中で書き続けた 13 年。

仲間と、起業。

合同会社として第一歩。
のちの 無双 の、原型がここに。

法人の名に、込めた意味

MUSOU

無双

— 「ふたつとない、並ぶものが、比べるものが無い」の意。

01

利用者にとって

「ここに来てよかった」と、
他と比べる必要のない居場所であること。

02

職員にとって

誇りにおいて、並ぶものが無い職場。
「この会社で働けている」と言い切れる場所。

03

経営として

合同会社 から 社会福祉法人 へ。
公共性と自由な組織づくりを、
両立させる器を持ちました。

挑戦と多角化 ― 桜川から広がる事業

福祉のとなりに、カフェと農園を置きました。

2022

グループホーム
「ホワイト」

定員 10 名で開所。
併設の短期入所と生活介護 20 名も同時稼働。
桜川市で、最初の "家" ができました。

2022

A coffee
オープン

生活介護事業所に併設で開業。
利用者・職員・地域が、
同じテーブルにつく場所に。

2023

いちご事業
スタート

利用者が主役の作業工程で、
工賃と職域を 同時に 増やす設計。
さつまいも事業も同年開始。

2024

グループホーム
「ネロ」

2 棟目を新築、定員 20 名。
生活介護も 29 名に増員。
「入居先が足りない」に応える。

2025.09

社会福祉
法人
無双へ。

3 年 4 ヶ月で、
合同会社から社会福祉法人
へ。

― 利用者と職員が "共に" 誇りを持てる、多様な職域づくり



現場のうごき ― 職種の垣根なく

福祉と、農業と、 経営が、 同じ卓を囲む。

いちごのパック詰め工程を、みんなが
一緒に眺めながら、値付けと出荷先を決めていく。
"職種の縦割り" を、意図的に置いていません。

働き方の話 ― 4 つの、静かな約束

「若いから」で、制限しません。

01

業績で評価する

年齢や在籍年数ではなく、
職域での成果と貢献で。

02

夜勤なし

生活のリズムを入職後崩さない設計。
夜勤が出来なくても正社員。

03

副業 OK

法人の外で稼ぐ学ぶ道を
絶ちません。

04

服装・髪型・
希望休、自由に。

自分らしい職員 が、
利用者の前に立てるように。

― 無双 が、法人としての誇りを実装するかたち。



現場を知る代表と、最高の仲間たち。

「絶望」を経験した代表 猪野が、13 年温めた設計図を、
共に描いてくれる仲間と、いま この場所で 動かしています。

FOUNDER

猪野 達也

理事長・社会福祉法人 無双

現場 13 年・令和 3 年 独立

最後に――いま、探している人

誇れる、仲間。

利用者と職員の **両方が** 誇りを持てる、
空間・職種・会社を、一緒につくる人を。

CONTACT	ADDRESS	ROLES
社会福祉法人 無双 0296-71-8963	茨城県 桜川市 明日香 4 丁目 39 番地	生活支援員・世話人・サビ管 カフェスタッフ・農園スタッフ

この無双は、**完成ではありません。**
ここから、

利用者さんの **未来** をつくる。

地域を、**変える。**

福祉の **常識** を、変える。

一緒に、

まだ誰も見たことのない **福祉** を、つくりましょう。